

北広島市高齢者総合ケアセンター—聖芳園

聖芳園だより

特集

アートので元気になる Vol.1

—表現力に触れ、その人を知る—

【新年度を迎えて】

青葉の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また日頃より聖芳園の運営につきまして格別のご配慮を
いただき厚く感謝申し上げます。



昨年より私たちは密を避けることが難しい介護の現場で、
新型コロナウイルス感染症予防のための対応に向き合う
日々が続いています。

生活の場である特別養護老人ホームでは面会の制限が続き、在宅サービスをご利用されるお客様も不安を抱えています。また職員は自身の体調や生活を丁寧に整えながら業務に向かい合っているところです。

先日受講したオンライン研修で、新型コロナウイルス感染症が施設内で発生すればそれは「災害」と同意義で、大地震や土砂災害が起きた時に事業所を責めることに意味がないのと同様に、乗り越えるためには普段からの準備や事前の想定がいかに重要であるかということ学びました。

今春にはクラスターが発生した管内の特養へ介護職員を派遣できましたが、報告された施設内の厳しさは他人事ではありませんでした。この状況はまだ続くことが予測されていますが、ワクチンへの期待を込め、水際で止まるよう祈りつつ、基本的な対応を続けていきたいと思っています。

前回のおたよりでも一部お知らせしましたが、令和元・2年度の北海道老人福祉施設等設備事業費補助金を活用し、非常用自家発電設備、給水設備整備工事を昨年度末までに完了いたしました。これにより災害時にも必要な電力や水が確保でき、サービスを利用されている要介護者のケアを安定的に行えるだけでなく、北広島市の福祉避難所として受け入れる予定の要配慮・虚弱者にも安心して対応できることとなりました。

財政的には在宅部門の収支バランスが厳しい部分がありますが、継続可能な事業所として保険者である北広島市とも相談しながら方向性を整理していきます。

地域貢献事業では、地域サロンや認知症カフェなどの公益的な活動をコロナ禍により、昨年度は中止としました。今年度は慎重に状況を見ながら、時間短縮や方法を検討し、再開等を進めていきたいと考えております。

今年は介護保険改正年度で、科学的介護を目指す厚労省が大量のデータを求めています。この複雑な仕組みを理解し、現場が応えることで加算が付加されることになっています。お客様やご家族にとっては負担増となりますがご了承いただきますことに、あらためて感謝いたします。

これからも様々な事柄を少しずつ、状況に応じながら段階的に進めていきたいと思っております。
みなさまからいただく温かい言葉が、職員にとって大きな励みになっています。
ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

今回の聖芳園だよりについて

お客様の作品をたくさん掲載しました。力作揃いです！どうぞお楽しみくださいませ。

現在、ウィズコロナの時代になり、慣れるまでに時間はかかりましたが、今では「マスク・消毒液・体温計」が我が家の三種の神器になっています。なかなか先が見通せない中で、新型コロナウイルスと上手に付き合っていくことが大切だと言われています。

聖芳園では直接お会いしての面会はできませんが、タブレット端末を利用してオンライン面会をすることができます。画面越しでの面会になりますので、直接会うことができずご不便をおかけいたしますが、面会したご家族からは「久しぶりに会えて良かった」「いい表情していました」などの声をいただいています。当面は感染予防のため、オンラインでの面会が続きますので、ぜひご活用下さい。



～医務室今日この頃～

コロナに明け暮れた昨年から同じ状態がこんなにも続くななんて思いもしませんでした。でも乗り越えなければいけません。

看取り・受診・往診・面会・レクリエーションなど、すべてがコロナウイルス感染対応下で進めてきました。

特に面会については、ご本人やご家族のお気持ちを考えると申し訳ない気持ちで一杯です。しかし施設での感染予防を第一に優先すべきと考え各職種と協力し合っています。ワクチンを終えてもまだまだ安心はできません。

今後も最新の状況を的確に捉え、判断して進めていくつもりです。

この厳しい状況の中、ちょっとした入居者様と職員とのほのぼのとした会話、一緒にお誕生日を祝っている姿、笑顔で召し上がっているご様子に触れては癒されている私達です。

できるだけ早く元の日常生活が戻るようにみんなで一緒に頑張りましょう！

頑張ります！！

～新型コロナウイルスワクチンについてのご報告～

特養入居者様と職員の新型コロナウイルスワクチン接種につきまして、5月14日と17日に1回目を実施し、6月7日と9日に2回目を実施し終了いたしました。

新型コロナウイルス感染予防のため、外出行事等を中止せざるを得ない中、聖芳園では入居者様に楽しみを持って生活していただきたいと考え、普段から行なっているお寿司昼食会や園内レクは感染対策をしながら継続しています。ご家族の皆様には、面会制限で「お母さんはどう過ごしているのかな〜?」「お父さんは元気なんだろうか?」と心配されていることと思います。そこで、普段の生活の様子を知っていただくために、いつもよりもこまめにご家族様に連絡をし、日常の写真を送らせていただいています。



コロナの話題が持ちきりの中なので、園内のほっこりするお話を…。

毎日、昼食前に園内ではラジオ体操が流れます。職員は食堂に集まった入居者の皆様とラジオ体操を行なっています。

そこで光るのは各職員の個性です。忘れかけている体操を入居者様の見様見真似で行う職員もいれば、体操前にみんなのやる気が出るように柔軟体操から始める職員、ある日には某格闘選手のように入居者様に声を出してもらおうと、両手を広げて「ワッハッハー」と大きな笑い声で動き回る職員もいます。その姿に入居者様も大爆笑!



「笑い」って本当に周りの人も幸せにしてくれますよね。

特 集

「アートの中で元気になる Vol.1」

—表現力に触れ、その人を知る—



蠣崎晃弘様／絵画／デイサービスセンター利用

観る者の心を揺さぶる【生きる力】を紹介する

特別養護老人ホーム聖芳園に入居されているお客様、デイサービスセンターやホームヘルパーステーションなど聖芳園の在宅サービスをご利用されているお客様の作品を紹介する。



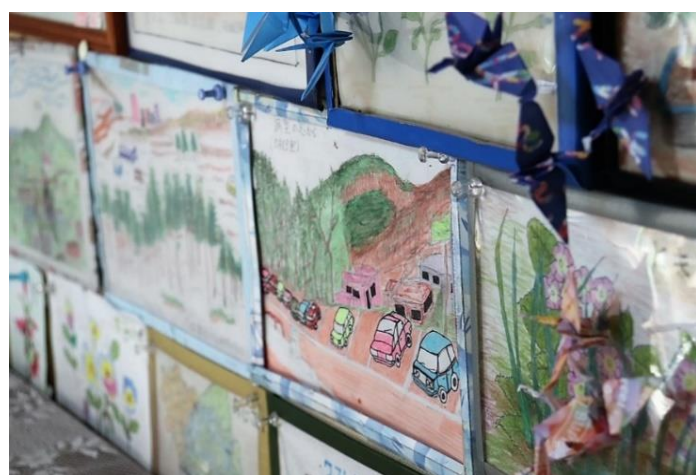
山口安子様／彫刻／ホームヘルパー利用



伊藤操様／編み物／居宅介護支援利用



田中フミ子様／レース刺繍／特養入居



高橋通明様／折り紙／デイサービスセンター利用

**表現は想像と鑑賞という枠にとどまらず、その力は様々な社会課題に向き合う「ビタミン剤」である
人々に気づきをもたらし、相互理解を深め、生きる意欲を高める力である**



沼田ヒロ子様／切り絵／ホームヘルパー利用



八島貞子様／刺繍／ホームヘルパー利用

表現は、その方の人生そのもの、ここに人生のものがたりがあり、輝きがある



伊藤操様／レース編み／居宅介護利用



蛸崎晃弘様／絵画／デイサービスセンター利用



岸本ミヨ様／ブローチ／きた高齢者支援センター利用



後澤 武様／書／特養入居



高橋通明様／デイサービスセンター利用

**「アートので元気になる」
—表現力に触れ、その人を知る—**



立石幸子様／革／きた高齢者支援センター利用



鶴見光代様／折り紙／特養入居



松浦長武／立体彫刻／居宅介護支援勤務

アートには人々の感性を刺激し、変化を起こす力がある



**「アートの力で元気になる」
—表現力に触れ、その人を知る—**



山口安子様／切り絵／ホームヘルパー利用

ホームヘルプステーション

～コロナの時代が過ぎ去った後を想像してみる～

コロナが過ぎ去る時代は、いつ訪れるのでしょうか・・・
現時点で、それを見通すのは難しいことです。

ただ、少なくとも「コロナが流行する前の状態に完全に戻ることはない」ということは誰もが感じ始めているところだと思います。悪いことばかりではなく、「アフターコロナ」の時代に価値が上がるものも想像しました。オンライン上では、味わえない五感を満たす体験等々。実際に人に会ったり体験することで現実の世界を皆で思いっきり楽しむような有難さを感じることもあるでしょう。

私たちホームヘルパーは、コロナ禍にあっても、お客様の生活のリズムを大切に、使命感を持って仕事に取り組んでいます。コロナが過ぎ去った時代を迎えたとしても、お客様が安心して在宅生活を送ることが出来るよう、万全な感染対策を心掛け、より質の高いサービスを提供できるよう努力していきます。

デイサービスセンター

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、デイサービスでの過ごし方も一変しました。

今までお客様が楽しみにしていた集団レクリエーションも中止しているなかで、お客様に楽しんで過ごして頂けるよう、【脳トレスタンプカード】という取り組みを開始しました。

パズルや 100マス計算、塗り絵などの自分にあった脳トレのプログラムを行っていただき、5個で星1つ完成となります。50個の星を集めると素敵な景品をプレゼントしています。お客様も景品獲得に向けて頑張っています。



居宅介護支援ステーション

本年4月より、居宅介護支援ステーションにケアマネジャー 小野 路子（おの みちこ）が入職しました。これまで所属していた、きた高齢者支援センターとの兼務になり、事務所の中を行ったり来たりしながらはりきって仕事をしております。

（笠原・松浦・吉田・小野）



趣味は温泉に行くこと。大好きでよく行く温泉は松原温泉・祝梅温泉（千歳市）です。

食べて寝ることも大好きです。身体を動かしたいと考えて体操やストレッチ・ウォーキングなどもしていますが、なかなか長続きしません。

楽しく続けられる運動があれば教えていただきたいと思います。

皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

きた高齢者支援センター

みんなで広げよう【シトラスリボンプロジェクト】

北広島市社会福祉協議会が賛同し活動している、“シトラスリボンプロジェクト”をご存じでしょうか？

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志が作ったものです。

柑橘にちなみ、シトラス色のリボンやロゴなどを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動になります。

資材費は、地域企業の寄付金で賄われ、4月より市内の高校や大学、地域のボランティアさんの手で、作成が始まっています。

現在、このプロジェクトに賛同し、シトラスリボンを作成して頂ける、ボランティアを募集しています。団体、個人は問いません。

もし協力して下さる方がいらっしゃいましたら、きた高齢者支援センター（011-375-5888）もしくは、社会福祉協議会（011-372-1698）まで連絡をお願いします。

この活動を通し少しでも温かい地域の輪ができていくことを願っています。



[この活動は聖芳園も賛同し協力しています。](#)

公益事業

西の里 虹サロン

地域の方が気軽に参加し、集える場として地域のボランティア様と共に開催しております。近所に友達がほしい方、お茶を飲みながら気軽に話したい方、楽しく体を動かし認知症予防をしたい方など、どなたでも参加できます。また、きた高齢者支援センター（包括支援センター）と共催していますので、困りごとなどのご相談もお受けしています。

- 毎月第3土曜日 13時半から15時半
- 西の里会館 集会室
- 参加費 お茶菓子代 100円
行事などにより別途負担いただく事があります
- 申し込み不要 直接会場にお越しください

西の里 おれんじカフェ

認知症の方、そのご家族を中心に地域の方も参加できる場として開催しています。

- 毎月第2水曜日 13時半から15時
- 西の里会館 集会室
- 参加費 お茶菓子代 100円
行事などにより別途負担いただく事があります
- 申し込みは1週間前までに聖芳園へ
ご連絡下さい TEL 375-3126

【編集後記】

コロナ禍で様々な行動が制限され、人と簡単に会えない日々が続いています。そんな中、感じたのは、当たり前だった人と人との触れ合い、会って話をするのが、どれだけ大切なのか。逆に言うと、人と触れ合うという、当たり前の事に感謝しなければいけないのだと気付かされたようにも感じます。超高齢化社会の中、今後は、より一層、お互いの支え合い、助け合いが必要になる時代になると思います。私たちも、このような状況下で地域の為に何ができるのか、繋がり、生きがいを持って生活していく為に、私たちができることを諦めずに考え、前に進んでいきたいと思っています。

広報委員 久保田直樹

【特集 アートで元気になる Vol. 1】いかがだったでしょうか。今年度は「表現力」をテーマに特集を組みたいと考えています。

表現や創造は、新たな魅力を地域に生み出し、コミュニティーの活性化に繋がる効果があり、また、生きる意欲を高める力であると考えています。

今回、作品・作品部分の掲載を了解いただいた方に改めてお礼申し上げます。掲載スペースや構成上、写真のサイズ、掲載数などが違うことをご了解いただければと思います。

表紙に掲載した作品は、高柳章彦様より、聖芳園へ寄贈していただいた國松登氏の油彩作品です。國松登氏（洋画家/1907年～1994年）は函館で生まれ。三岸好太郎に師事、国画会会員、全道美術協会会員であり、北海道を代表する作家です。

表紙掲載にあたり、北海道を代表する彫刻家で息子様の國松明日香氏と、お孫様で同じく彫刻家の國松希根太氏より快く了解をいただいたことに感謝いたします。

特別養護老人ホーム聖芳園/ショートステイ：(011) 375-3126

聖芳園 デイサービスセンター：(011) 375-5070

聖芳園ホームヘルプステーション：(011) 375-5080

聖芳園居宅介護支援ステーション：(011) 375-3245

北広島市きた高齢者支援センター：(011) 375-5888

ホームページ：<http://www.seihoen.or.jp> 〒061-1102 北広島市西の里 347 番地4



國松登「星月夜」1992 油彩・キャンバス